



秋空に歓声響く

9/16 市内小学校運動会

市内の小学校の運動会が9月16日、各地で開催されました。

市内一のマンモス校である三郷小学校(児童数1,193人)では、時折小雨がぱらつく中、一部競技の順番を入れ替えるなどして競技が行われました。

秋雨前線や台風の影響などで天候が悪い日が多く、校庭での全体練習などがなかなかできずに心配されましたが、本番ではそんなことを感じさせない、元気いっぱいの表現、競技を見せてくれました。



市内NPOが初顔合わせ

9/28 安曇野市NPO交流会

市内の民間非営利団体(NPO)の情報交換などを行う交流会が9月28日、初めて開催されました。

現在、市内には24団体があり、この日は、15団体の代表者が参加しました。各団体は、福祉・まちづくり・子ども(子育て)・環境など、多様な分野で活動しています。

この日は、団体の紹介や情報交換が行われました。参加者は、交流会終了後もお互いの活動や連携について意見交換をするなど、熱心に交流を深めていました。

国籍・文化の違いを越え

10/1 多文化共生フェスティバル

多文化共生フェスティバルが10月1日、穂高会館で開かれました。

この催しは、市内などに住む外国人と交流を深めるため開かれたもので、中国の文化をテーマにした会場と、世界各国が集う会場に分かれて開催されました。

中国文化の会場では、ギョーザ作りの実演や中国菓子の試食ができる展示コーナーが並び、ステージでは、中国東北地方の田植え踊り、多文化共生国のダンスや民族楽器の演奏などが披露されました。

実行委員会会長の中村隆宣さんは、「イベントを通じて、それぞれの国際交流団体に充実感があつたと思う。これからも1つに連携してやっていければ」と話してくれました。

この日は、市内外から約1,000人が会場を訪れ、異国の文化を身近に感じていました。



海のない安曇野に「船」

9/23・27 市内秋祭り

穂高神社の伝統行事である「御船祭り」が9月26日・27日に行われました。(左写真上)

27日の本祭りでは、穂高区と穂高町区、等々力町区がそれぞれ制作した子ども船3隻と大人船2隻が神楽殿の周りを巡りました。祭りの見せ場である大人船のぶつかり合いが始まると、その勇壮な激突に観客からは歓声と拍手が起こっていました。

御船祭りは、海運を司り、海に親しんでいた安曇族の祖神(おやがみ)である海神を穂高神社の祭神として祭ったことから始まったとされる説もあります。

9月23日には、豊科重柳神社のお祭りも行われ、地区内を鮮やかな色の布で飾られた船が練り歩きました。(左写真:右下, 左下)



再生の美に挑む

県障害者文化芸術祭で池上さんが最優秀賞

三郷小倉にある知的障害者更正施設「アルプス学園」の池上猛さんはこのほど、長野県障害者文化芸術祭作品展の手芸部門で、最優秀賞(県知事賞)を受賞しました。

受賞したのは、裂き織りの壁掛けで、114点の出品がある中から選ばれました。裂き織りは、小谷村などに伝わる織物で、役目を終えた古布を細かく裂き、機織り機にかけて作られます。池上さんは、20年以上機織りを続ける熟練者。自ら色や布の風合いを選定し、1日30分くらいのペースでゆっくりと丁寧に紡ぎました。

池上さんをはじめ、学園生が制作した裂き織りは、嶺山美術館で販売されています。



市内最高齢者は二木さん

9/12 市内最高齢者などに祝い品伝達

敬老の日の高齢者祝賀事業として平林市長が9月12日、市内の男女最高齢者の小林達郎さん(102歳)と二木すみ江さん(103歳)をそれぞれ訪問し、祝い品を手渡しました。

市内最高齢者となった二木すみ江さんは、平林市長から祝い品を手渡されると「ありがとうございます」と笑顔で応えていました。

このほか市では、本年度88歳を迎える男女308人と100歳を迎える男女14人に祝い品を贈り、長寿をお祝いしました。